

教科:(国語) 科目:(言語文化) 単位数:2単位 対象:(第1学年)

教科担当者:(1組:倉部 ㊟)(2組:西・川村 ㊟)(3組:倉部・川村 ㊟)(4組:西・川村 ㊟)(5組:倉部・川村 ㊟)(6組:西・川村 ㊟)

使用教科書:標準言語文化(第一学習社)

使用教材:学習課題集(第一学習社)、新精選古典文法(東京書籍)、国語図説(京都書房)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他社とかかわりの中で伝えあう力を高め、自分の思いや考えを広げたり、深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
4月	オリエンテーション	◆授業規律や科目目標を理解する。				○	1
	小説「とんかつ」	◆謎の母子の登場に始まる話の構成と展開を理解し、セリフや行動から人物像と心情を読み取る。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	1
	小説「とんかつ」	◆謎の母子の登場に始まる話の構成と展開を理解し、セリフや行動から人物像と心情を読み取る。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2
5月	古文「児のそら寝」 ・現代仮名遣い ・いろは歌 ・五十音	◆古典の文章に慣れるとともに、現代における人物造形のおもしろさを読み取る。 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを知る。		○	○	○	2
	中間考査			○	○	○	1
	古文「児のそら寝」 ・現代仮名遣い ・いろは歌 ・五十音	◆古典の文章に慣れるとともに、現代における人物造形のおもしろさを読み取る。 歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを知る。		○	○	○	2
	漢文入門 p208～211 ・返り点 ・書き下し文 (助字・置き字でできたら)	◆返り点、書き下し文等漢文を読む上での基礎知識を身につける。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	1
漢文入門 p208～211 ・返り点 ・書き下し文 (助字・置き字でできたら)	◆返り点、書き下し文等漢文を読む上での基礎知識を身につける。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	1	

	指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
6月	漢文入門 p 208～211 ・返り点 ・書き下し文 (助字・置き字でできたら)	◆返り点、書き下し文等漢文を読む上での基礎知識を身につける。		○	○	○	2
	漢文入門 p 208～211 ・返り点 ・書き下し文 (助字・置き字でできたら)	◆返り点、書き下し文等漢文を読む上での基礎知識を身につける。		○	○	○	2
	文学史 ・芥川龍之介（羅生門を 読む上での準備）	◆9月からの『羅生門』に向けて、作者芥川龍之介についてや、その時代の文学史に 触れ、その時代の作風を学ぶ。		○	○	○	1
7月	期末考査			○	○	○	1
	文学史 ・芥川龍之介（羅生門を 読む上での準備）	◆9月からの『羅生門』に向けて、作者芥川龍之介についてや、その時代の文学史に 触れ、その時代の作風を学ぶ。		○	○	○	1
	文学史 ・芥川龍之介（羅生門を 読む上での準備）	◆9月からの『羅生門』に向けて、作者芥川龍之介についてや、その時代の文学史に 触れ、その時代の作風を学ぶ。		○	○	○	1

	指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
8月							
9月	小説「羅生門」	◆下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2
	小説「羅生門」	◆下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。		○	○	○	2
	小説「羅生門」	◆下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。		○	○	○	2
	小説「羅生門」	◆下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。		○	○	○	2
	小説「羅生門」	◆下人の行動や心理をもとに場面の展開を捉え、老婆の語る論理が下人の決断に与えた影響を読み取る。		○	○	○	2
	古典文化・常識 (教科書後ろのページ) 月、刻、地名など 動詞の活用	◆古典作品を読む上で必要な文化、常識を確認し、理解する。動詞の活用も触れ、復習をする。次の『奥の細道』で触れる地名も事前的に理解する。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2

指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
中間考査			○	○	○	1
10月 古典文化・常識 (教科書後ろのページ) 月、刻、地名など 動詞の活用	◆古典作品を読む上で必要な文化、常識を確認し、理解する。動詞の活用も触れ、復習をする。次の『奥の細道』で触れる地名も事前的に理解する。		○	○	○	2
古典文化・常識 (教科書後ろのページ) 月、刻、地名など 動詞の活用	◆古典作品を読む上で必要な文化、常識を確認し、理解する。動詞の活用も触れ、復習をする。次の『奥の細道』で触れる地名も事前的に理解する。		○	○	○	2
古典文化・常識 (教科書後ろのページ) 月、刻、地名など 動詞の活用	◆古典作品を読む上で必要な文化、常識を確認し、理解する。動詞の活用も触れ、復習をする。次の『奥の細道』で触れる地名も事前的に理解する。		○	○	○	2
11月 漢文「矛盾」 故事成語	◆漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2
漢文「矛盾」 故事成語	◆漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2
漢文「矛盾」 故事成語	◆漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。		○	○	○	2
漢文「矛盾」 故事成語	◆漢文の訓読に慣れるとともに、現在使われている言葉が漢文に由来することを知る。		○	○	○	2
古文『奥の細道』 旅路の確認、調べ学習	◆場所、時間を確認しながら旅程を知る。作中にある和歌の意味を捉え、旅路での心情・情景を理解する。		○	○	○	2

	指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
1 2 月	期末考査			○	○	○	1
	古文『奥の細道』 旅路の確認、調べ学習	◆場所、時間を確認しながら旅程を知る。作中にある和歌の意味を捉え、旅路での心情・情景を理解する。		○	○	○	2
1 月	小説「夢十夜」	◆「夢」という非日常を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2
	小説「夢十夜」	◆「夢」という非日常を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。		○	○	○	2
	小説「夢十夜」	◆「夢」という非日常を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。		○	○	○	2
	小説「夢十夜」	◆「夢」という非日常を持った世界において、「自分」は何を判断の根拠としているかを読み解く。		○	○	○	2
	古文『枕草子』「はるは あけぼの 形容詞・をかし／あはれ の文化	◆当時の貴族の暮らしを知り、四季の何に情緒を感じていたのか知る。また、現代との感覚の違いを考察する。「をかし」「あはれ」の違いを理解する。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2

	指導内容 【年間授業計画】	言語文化の具体的な指導目標 【年間授業計画】	評価の観点・方法	知	思	態	予定時数
2月	古文『枕草子』「はるはあけぼの形容詞・をかし／あはれの文化	◆当時の貴族の暮らしを知り、四季の何に情緒を感じていたのか知る。また、現代との感覚の違いを考察する。「をかし」「あはれ」の違いを理解する。		○	○	○	2
	古文『枕草子』「はるはあけぼの形容詞・をかし／あはれの文化	◆当時の貴族の暮らしを知り、四季の何に情緒を感じていたのか知る。また、現代との感覚の違いを考察する。「をかし」「あはれ」の違いを理解する。		○	○	○	2
	古文『枕草子』「はるはあけぼの形容詞・をかし／あはれの文化	◆当時の貴族の暮らしを知り、四季の何に情緒を感じていたのか知る。また、現代との感覚の違いを考察する。「をかし」「あはれ」の違いを理解する。		○	○	○	2
3月							
	学年末試験			○	○	○	1
	「春はあけぼの」（または「うつくしきもの」）を参考に、自分なりの句を作る。	◆四季と言えば思い浮かぶもの、うつくしきものと言えば思い浮かぶもの、それぞれ作品を参考に考えさせ、句を作成する。	授業ノート 授業態度 提出物	○	○	○	2